

## 横浜に暮らした 占領軍高級将校たち

戦後、沖繩を除く日本本土で最初に占領された大都市は、横浜だった。占領期間中の横浜には、米第八軍の司令部と在日兵站司令部が置かれ、将兵の宿舎や家族住宅、そして彼らが暮らすために必要な様々な施設が設けられ、占領終結後も接収が長引いた。

米軍施設や将兵と家族の暮らしについては、これまでも『市史通信』などで紹介してきた。また、昨年夏には「占領軍のいた街」と題する写真パネル展と関連の講演会を開催した。

しかし、米軍施設の実態についてはまだまだわからないことも多い。

### マッカーサーの宿舎

今回は、占領軍高級将校の宿舎にテーマをしばって、事実関係を確認していききたい。昨年開催した展示会関連講演会「占領の中の横浜・神奈川」において、複数の参加者から「マッカーサーの宿舎はどこにあったのか」という質問があった。

マッカーサーが占領軍の横浜進駐当初、ホテル・ニューグランドを宿舎としたことはよく知られている。一方、進駐前に日本側がマッカーサー用にマイヤー邸を用意したことが、新聞紙上に報じられている（『読売報知』一九四五年八月二八日）。マッカーサーは

一九四五（昭和二〇）年九月二日に、そのマイヤー邸に宿舎を移したとされる（白戸秀次『ホテル・ニューグランド50年史』一九七七年）。ところが、この二日の移動を裏づける直接的な資料は、今のところ確認できていない。

ただし、九月八日の東京進駐式を報じる新聞記事にマッカーサーの宿舎が従来通りマイヤー邸であるという記述があるため、少なくとも九月初めにマイヤー邸に移っていたことは確かである（『朝日新聞』九月九日）。

マイヤー邸に関しては、もう一点疑問がある。その所在地である。八月二八日の記事は、マイヤー邸の住所を旭台五三と記している。また、横浜市渉外課が一九四六年五月現在で作成した「進駐軍接収住宅調査書」（横浜市史料室所蔵渉外部資料）という文書にも、マッカーサー用の「シマイヤ」邸があり、やはり住所は旭台五三である。しかし、この番地の根拠は不明で疑問がある。新聞記事には、五七番地とするものもある（『毎日新聞』八月三十一日）。

いて検証を試みたい。

### マイヤー邸

C・マイヤーはスタンダードヴァキューム社総支配人で、『昭和十五年四月一日現在 横浜市電話番号簿』（横浜市中央図書館所蔵）によれば、同社総支配人住宅が中区根岸芝生台四九にあつたとある。根岸芝生台は、一九三三（昭和八）年の町界町名地番整理によって根岸町芝生台などから改名されたもので、番地も変わった。四九番地は旧二〇七〇番地の一部で、同じく旧二〇七〇番地の一部である五七番地・五九番地と共に同社の土地だった（『横浜市町界町名字界字名変更改称調査書 昭和八年四月一日施行』横浜市役所、横浜市中央図書館所蔵、および『横浜市土地宝典 第一巻 中区之部』横浜市土地協会、一九三〇年による）。

なお、根岸芝生台は日中戦争さなかの一九四〇年に根岸旭台と改名された。一説には、読みが「しほう（死亡）」に通じるからだという。

先の五三番地は旧西根岸町下一一六二番地（旧磯子区）で、四九番地・五七番地から道をはさんだ西側に位置し、スタンダードヴァキューム社の土地でもない（『横浜市土地宝典 磯子区之部』日本全国地図刊行会神奈川県出張所、一九三二年）。したがって、マイヤー邸は旧二〇七〇番地の四九番地ないしは五七番地に所在していたと考えるのが妥当で、五三番地は誤りだと思われる。

る。また、敷地が複数の番地にまたがっている場合、どの番地をもって代表させるかは時期によって異なる。そのことが、混乱の一因とも考えられる。

さらに、横浜市渉外課が作成した別の文書「接収（住宅ビル）参考資料」（渉外部資料）には、旭台四七―四九番地所在のC・マイヤー邸という記載がある。年不詳だが、先の「進駐軍接収住宅調査書」よりは後の文書と思われる。

この文書には米軍のビルディングナンバーが付記されており、マイヤー邸は11―20という番号が付いている。これを米軍が作成した「Dependent Housing Areas Yokohama」（一九四九年一月、米国立公文書館所蔵）という、米軍の家族住宅・宿舎の地図に記載されたナンバーと照合すると、根岸小学校裏の坂道を上り切った東側のひときわ大きな建物がそれに当たる（図1参照）。『中区明細地図 昭和三十七年度版（経済地図社、一九五二年）で当該区域を見てみると、そこは五七番地で、同様の大きな住宅が記され、エックススタンダード石油社長宅とある。四九番地は明記されていないが、後の明細地図で確認すると、五七番地の北側に隣接する区域が四九番地で、エックススタンダード石油横浜事務所倉庫となっている。先の米軍の地図では、ガレージという表記が入っている。

以上を考え合わせると、マッカーサー用に用意されたマイヤー邸の所在地は、根岸旭台四九・五七・五九の区

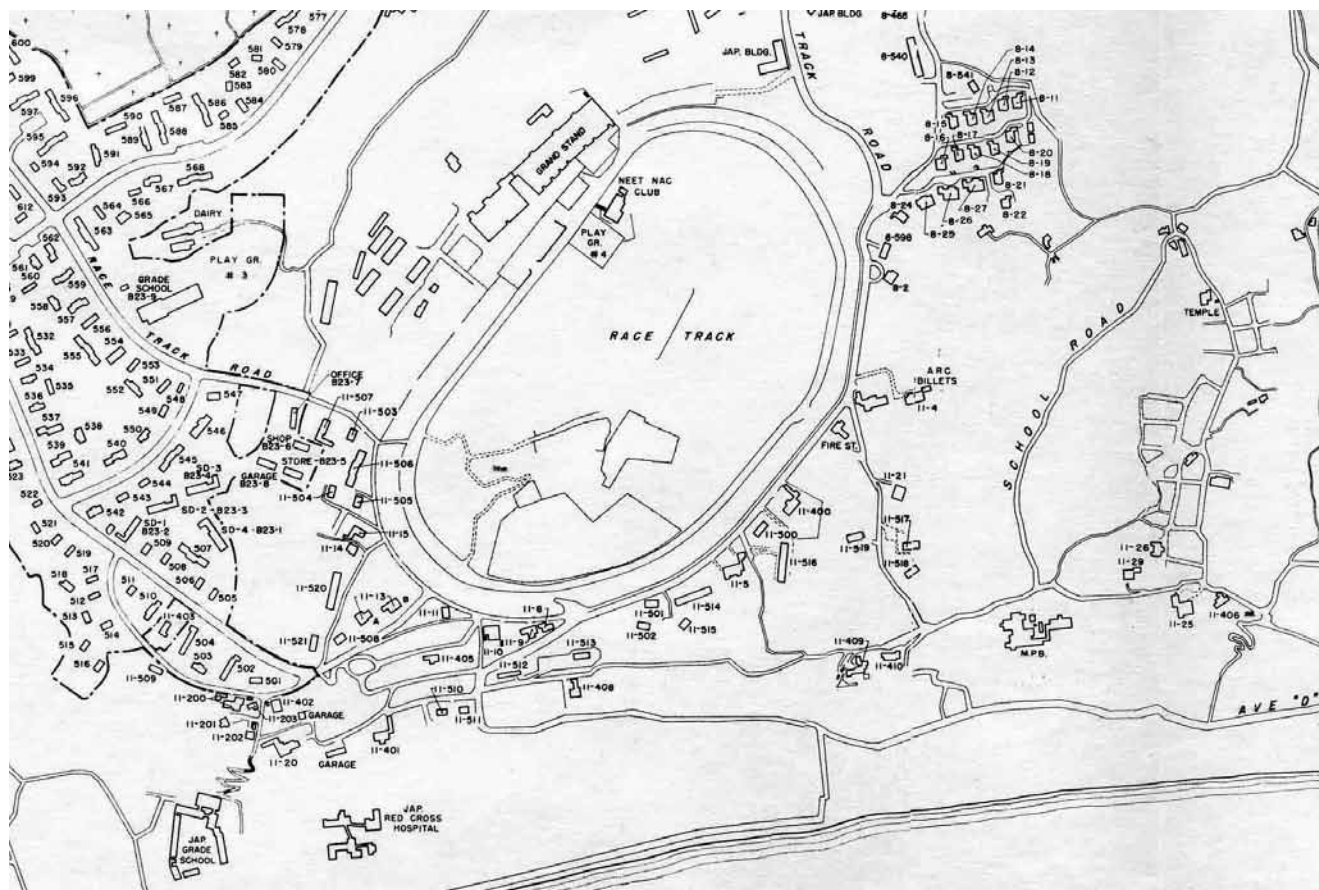


図1 根岸地区の米軍住宅 1949(昭和24)年1月 Dependent Housing Areas Yokohamaより  
 図中左手下の小学校からジグザクの坂を上った右手に11-20が確認できる。そのさらに右手に11-401がある。

米国立公文書館所蔵

域であったことは間違いないだろう。同地には現在、コスモ根岸旭台というマンションが建っている。

### アイケルバーガー米第八軍司令官

一方、米軍の電話帳を見てみると、Dependents(家族)欄に宿舎・住宅のナンバが記されており、第八軍司令官アイケルバーガー中将の宿舎が11-20になっている(「Telephone Directory Yokohama Area March 1947」国立国会図書館憲政資料室所蔵)。マッカーサーが東京に移って以降、マイヤー邸には横浜でナンバーワンの地位にあったアイケルバーガーが住んでいたのである。マッカーサーは一九四五(昭和二〇)年九月一七日に東京のアメリカ大使館に宿舎を移す。その後、アイケルバーガーは、九月二〇日午後新しい宿舎に引っ越し、そこで夕食を取ったと日記に記している(アイケルバーガー日記「デューク大学所蔵」)。

おそらく、このときアイケルバーガーは、マイヤー邸に移ったのだと思われる。写真1は、翌年九月にアイケルバーガーの横浜の宿舎で撮影されたものである。マッカーサーの宿舎マイヤー邸とされる写真(袖井林二郎・福島鑄郎編『マッカーサー 記録・戦後日本

の原点』日本放送出版会、一九八二年掲載、マッカーサー記念館所蔵)と比較すると、向かって左の窓、および正面奥のベランダ、階段と植木の様子が一致し、マイヤー邸と推定できる。

この頃すでに、アイケルバーガーはこの宿舎で夫人と暮らしていた。マッカーサーの夫人と子息は、前年の九月一九日に厚木飛行場に到着し、アイケルバーガーはマッカーサーと共に二人を迎え、東京まで送り届けていた。しかし、その他の将兵の家族が来日することはまだ認められていなかった。その後、アイケルバーガーの進言により家族の来日が認められる見通しが立つと、年末から翌年にかけて家族住宅の準備が進められていった。



写真1 米国政府要人の訪問を受けたアイケルバーガー米第八軍司令官 1946(昭和21)年9月4日 米国立公文書館所蔵



写真2 エインズワース号船上で再会したアイケルバーガーと夫人  
1946(昭和21)年6月24日  
米国立公文書館所蔵

朝鮮戦争勃発にともない、朝鮮半島に出兵し、ウォーカー司令官も七月に赴任した(横浜連絡調整事務局「Y L C O 執務報告第六号」『横浜市史Ⅱ』資料編1、横浜市、一九八九年)。ところが、同年一月二三日、ウォーカー司令官は乗っていたジープが事故を起こし、戦死する。ウォーカー司令官の遺体は翌日飛行機で羽田飛行場に到着し、根岸旭台に運ばれて二五日に内輪の葬儀が執り行われたという。やがて三〇日に、遺体は夫人・子息と共に羽田飛行場から帰国した(「Y L C O 執務報告第六号」)。

### 高級将校たちの宿舎

では、その他の高級将校たちの宿舎はどのようなになっていたのだろうか。まず、アイケルバーガー司令官の下で第八軍参謀長の地位にあったバイヤーズ少将の宿舎を確認してみよう。先の米軍電話帳の一九四七年版を見ると、バイヤーズの宿舎は11-401となっている。同じく米軍の地図で場所を確認すると、同宿舎はマイヤー邸の東隣に位置している(図1参照)。



写真3 家族住宅建設の様子を視察するアイケルバーガーら 中央にバイヤーズ少将  
1946(昭和21)年11月18日  
米国立公文書館所蔵

そして、翌一九四六年六月二四日、家族を乗せた第一船であるエインズワース号が横浜港に入港した。アイケルバーガー夫人もこの船で来日し、出迎えたアイケルバーガーと船上で再会を果たした。以後、二人はおよそ二年間マイヤー邸で暮らしたのである。アイケルバーガーは一九四八(昭和二三)年に米第八軍司令官を辞し、八月四日に横浜港から軍輸送船に乗って日本を離れる。

その後を継いだのはウォーカー中将で、やはり11-20、すなわちマイヤー邸を宿舎とした(「Telephone Directory Yokohama Area July 1949」[国立国会図書館憲政資料室所蔵])。

第八軍は一九五〇(昭和二五)年の

田飛行場から帰国した(「Y L C O 執務報告第六号」)。

この間の経緯から、朝鮮半島出兵後もウォーカー夫人は根岸旭台で留守を守っていたことがわかる。ウォーカーの後を継いだリッジウェイ中将は、翌年四月にマッカーサーの後の連合国軍総司令官となっており、横浜には滞在しなかったと思われる。一貫して横浜における占領軍トップの宿舎であったマイヤー邸が、その後どのような経緯を経てスタンダード石油に返還されたかは定かではない。外国、特に連合国の会社・個人の所有であった土地や建物の接収と返還については、横浜市渉外部の資料にも登場してこないことが多い。今後の課題としておきたい。

渉外課の「接収(住宅ビル)参考資料」によると、所在地は根岸旭台六二番地でスタンダード石油の所有である。ちなみに、六二番地も地番整理前は二〇七〇番地の一部だった。

以下、異動については横浜連絡調整事務局「Y L C O 執務報告」の各号、宿舎については米軍の電話帳各年版を基に、主だった高級将校の宿舎について確認してみよう。四八年一月に転任したバイヤーズの後任はレスター少将だったが、アイケルバーガー司令官の退任にともなって転任し、ホルシー少将が後を継いだ。ホルシーの宿舎は9-43で、バイヤーズとは異なっていた。ホルシーも半年後の一九四九年二月

に転任し、ランドラム大佐が後任となった。ランドラムの宿舎は9-405だったが、二ヶ月ほどでデイーン少将と交替する。デイーン少将の宿舎は再び11-401に戻っている。そしてまた半年後、デイーン少将が転任し、ランドラムが復帰する。

翌一九五〇(昭和二五)年八月、米第八軍が朝鮮半島に出兵した後、在日兵站司令部が新設され、横浜税関の建物に入った。その司令官にはウェイブル少将が就き、9-40を宿舎とした。9-40は、第八軍副参謀長だったタイヤー大佐も宿舎としていた。

以上の宿舎の所在地および元の所有者を確定するには、マイヤー邸同様に

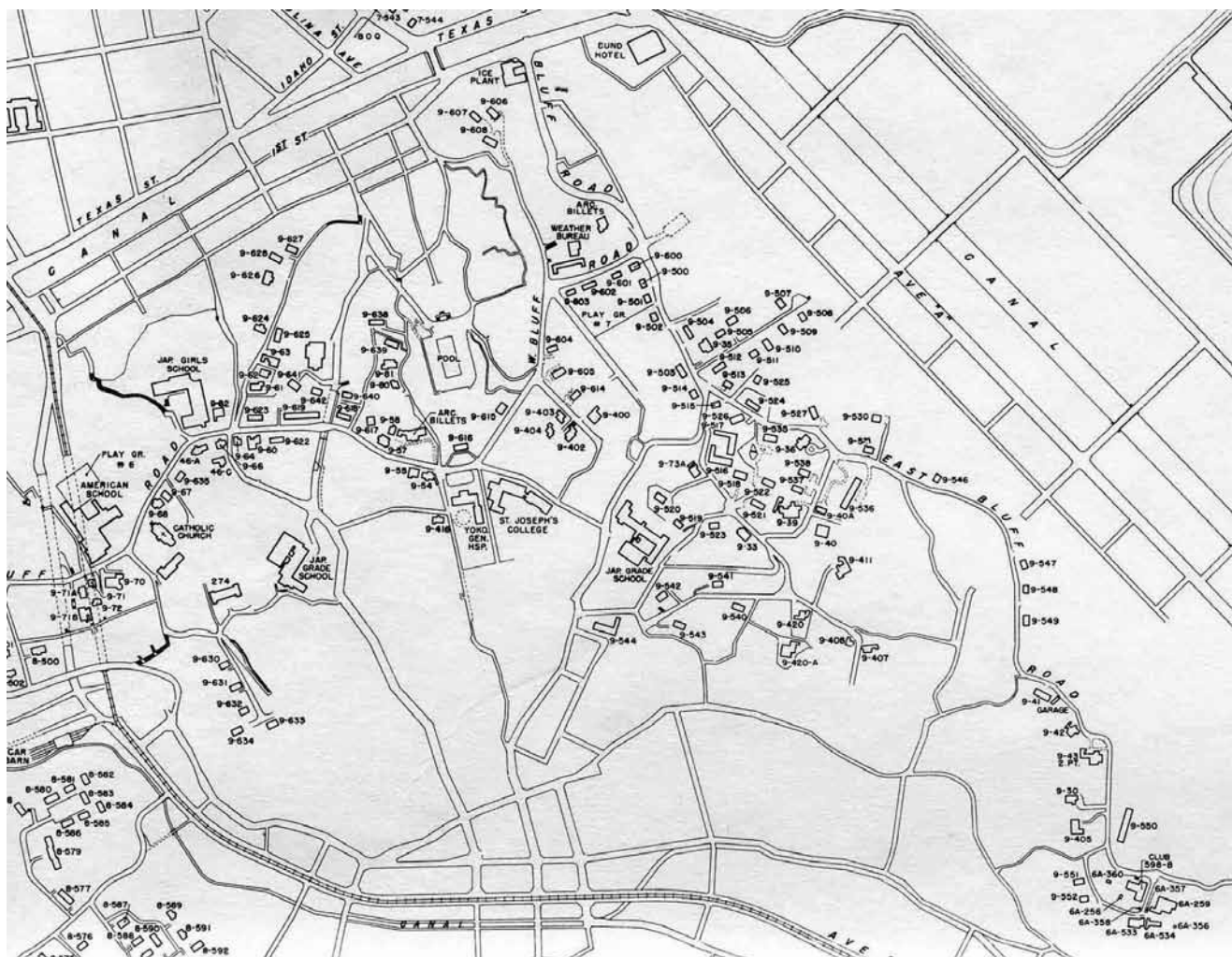


図2 山手の米軍住宅 1949(昭和24)年1月 Dependent Housing Areas Yokohamaより  
 図中の右下手に9-43と9-405がある。図中央に北方小学校があり、9-400はその上方、9-40は右手にある。

米国立公文書館所蔵



写真4 ヨコハマコマンド司令官ガー  
 ヴィン准将 1949年

米国立公文書館所蔵

【付記】今利用した資料の内、米軍の電話帳は国立国会図書館憲政資料室、戦後の明細地図や横浜市中央図書館所蔵資料は同館で閲覧できる。その他の資料は、横浜市史料室で閲覧することができる。

(羽田博昭)

複数の資料を照合して検討する必要はあるが、ここでは米軍地図と戦後の明細地図で場所と番地を示すに止めたい。ホルシーの宿舎9-43は、山手町の本牧寄り、ワシン坂病院の北に位置し、一五九番地に当たる(図2参照、以下同様)。渉外課の資料ではやはり番地の混乱が見られ、一五七番地などとなっているが、野口研究所所有の土地・建物であったようだ。9-43は、後にヨコハマコマンド司令官ガーヴィン准将の宿舎となる。ランドラムが宿舎とした9-405は、その隣の敷地で一六〇番地、大阪商船の所有である。

キのおもちゃ博物館向かいのマンション敷地となっている。ウェイブルの宿舎9-40は、北方小学校の東、元米国総領事官邸の向かい山手町二四四番地である。

この他、占領初期にはホテルニューグランドやヘルムハウスなども、高級将校の宿舎としてあてがわれた。たとえば、第八軍憲兵隊司令官であったキヤドウェル大佐は、夫婦でヘルムハウスを宿舎としていた。

しかし、家族住宅の整備や新築が進んでからは、山手(根岸旭台などを含む)の洋風住宅や、山下公園に新たに建設された将校家族住宅などが、将校専用の家族住宅となった。山下町一帯の既存の建物や新たに建設された宿舎は、主に単身の将校・軍属の宿舎となった。これらに加え、一般将兵と軍属のための家族住宅が、本牧と根岸合わせて一〇〇〇戸以上建設される。

こうして、占領期における米軍将兵と家族の暮らす街横浜が形作られていったのである。